

視覚障害

その研究と情報

No. 198



特集1

点字がライフワーク ——第1回本間一夫文化賞の阿佐博さん

◎塩谷 治 1

特集2

座談会 わたしたちの点字指導

◎大藪 眞知子・竹田 恭子・和田 伸也 9

●ルポ…………… 16

メダル141の中国、52の日本

——アテネ・パラリンピック報告 ◎武藤 歌織

●先達に学び業績を知る…………… 24

気負わず奢らずに専念した三療業

——101歳の生涯を現役で通した多田彌太郎さん ◎佐々木 実

●盲学校レポート…………… 34

秋田盲「北東北3県の人事交流」 ◎榎 豊

●今を走る…………… 41

子どもの成長待つて大学院に入学

——視覚障害者の美術鑑賞を研究する半田こづえさん

◎鳥山 由子

●ITコラム…………… 49

情報の宝庫としてのホームページを活用しよう ◎望月 優

2004
November

ブレイルメモが ワイヤレスになって新登場!

- ◆ ケーブル不要のブルートゥースを搭載、ワイヤレスでスイスイ通信
- ◆ コンパクトなボディに点字表示部24マスを凝縮
- ◆ 新開発キースイッチで操作もスイスイ
- ◆ 文書を送るだけ点訳作業もスイスイ
- ◆ 読み上げ機能で確認もスイスイ

業界初の
5年保証

8点 24マス
6MB
バッテリー内蔵



■ ブレイルメモBM 24

Braille Memo BM24

¥238,000 (非課税)

ブルートゥース搭載

読めるだけでいいの? メモをとり、ノートを書く点字ディスプレイ

■ 点字ディスプレイ ブレイルノート ブレイルメモ

- ・点字情報の有料電子配信 (点字毎日、視覚障害 [視覚障害者支援総合センター刊] 等) に対応しています。
- ・点字プリンタに直接接続で点字印刷も可能です。
- ・携帯にはキャリングケース (別売) が便利です。

■ ブレイルノート46X (BN46X)

KGSの点字技術を集大成したスマートかつ
ハイエンドな点字ディスプレイ

8点46マス 6MB
着脱式バッテリー



電子
配信
対応

¥449,000 (非課税)

・オプション 外付けのドライブ (CFD-10S) を接続して、
編集した文書を外部メディアに保存可能。

■ ブレイルメモ16 (BM16)

パソコンが不得手でも、簡単
に使い、場所を選ばず、使い方
自由自在

8点16マス
2MB
バッテリー内蔵



新価格
¥168,000 (非課税)

■ ブレイルノート46D (BN46D)

触読専用でパソコン画面情報を
リアルタイムに触読

8点46マス



¥349,000 (非課税)

アイコンって、いろいろな形があるネ! 図形をリアルタイムに表示する点図ディスプレイ

■ 点から面へ! 点図ディスプレイ ドットビュー

- ・図形学習に ・墨字 (一般文字) 学習に ・パソコンの操作支援ツールに
- ・応用範囲は多岐に ・画像触読ツールに

業界初の
5年保証

■ ドットビュー Dot View DV-2

点間2.4mmのファインピッチで構
成され、より繊細な点図を表現でき
る世界最先端の点図ディスプレイ

新製品

32×48ドット

時代は
新触覚へ



¥1,460,000 (税込)

■ ドットビュー Dot View DV-1

点間3mmピッチ表示部の
標準型点図ディスプレイ

24×32ドット



¥680,000 (税込)



点字がライフワーク ——第1回本間一夫文化賞の 阿佐博さん

塩谷 治

点字の神様の言葉

「私はねえ、何か特別目立ったことをしてきたわけではないのですよ。ただ点字が好きで好きでここまで生きてきただけなんです」と謙遜するのが、いかにも阿佐先生らしい。第1回本間一夫文化賞の選考委員会では、委員全員の合意で「点字」がキーワードになったと聞いている。その第1回受賞者にもっともふさわしいと誰もが納得するのがこの人だろう。その阿佐先生に点字への思いを改めて伺うと、「思いと言ってもねえ、それはもう体の一部ですから、寝ても覚めても点字に触れていたい、そういう感じですね」と言う。長い間日本点字の変遷の要所要所に関わってこられた前日本点字委員会会長、現顧問であり「点字の神様」である阿佐先生の言葉である。思わず愚問であったことに赤面する。

生い立ち

阿佐先生は、大正11年4月8日、徳島県の井内村（現在の辻町）で生まれた。父は高校野球で有名な池田高校の前進である池田中学の国漢教師、母も小学校の教師であった。その大らかな性格は、たぶん幼少年時代に培われたものだろうと推測したが、案の定、小さい頃は野山を駆け回り、川遊び、釣り、木登

りの好きな悪童であったという。

井内村は吉野川の上流に位置し、岩石の多い土地柄で、採石業が盛んであった。ダイナマイトで岩石を砕く音が絶えず村中に響き渡っていた。阿佐家の隣の家もこうした採石を業とする家で、大小のダイナマイトがいつでも子どもの手の触れる所にあったという。こうした環境が、4歳の阿佐少年を、ある日、思いもよらぬ不幸に陥れることになった。

お花見の季節であったというから、3月も末頃のことであつたろう。親戚一同そろってのお花見から帰り、阿佐家へ集まって大人たちがお茶を飲んでいるときのことであった。1人縁側で遊んでいた阿佐少年のおもちゃ箱が突然爆発した。おもちゃ箱の中には、2、3日前、隣の家の子からジャンケンで勝ち取ったダイナマイトが入っていたのである。すぐに近所の医者に担ぎ込まれたが、どうにも手の施しようがなく、大阪の大学病院まで運ばれ5カ月の入院となった。5カ月経って体の傷はどうやら癒えたものの、そのまま視力が戻ることはなかった。

やがて小学校入学期を迎え、将来を案じた父は、阿佐少年を伴って大阪や兵庫を訪れた。大阪市盲、府盲を見学し、点字毎日編集長の中村京太郎や、兵庫盲校長の今関秀雄らにも会った。中村や今関は、父に対して「急いで盲学校へ入れることはないから、3、4年は田舎で遊んで、十分に体を鍛えた方がよい」と話した。阿佐家の事情から、あと4年経たなければ盲学校の近くに引っ越すことができなかったのである。あえて寄宿舎に入れることを中村や今関は勧めなかった。

阿佐少年は、さらに4年間「遊ぶ」ことになった。両親が教師であったこともあって、阿佐家は、ふだんから近所の子ども

たちの遊び場のようなところになっていた。目が見えなくなっ
てからもこうした事情は変わらず、どこかへ行こうというとき
でも、子どもたちは自然に阿佐少年の手を引き、以前と変わら
ず遊ぶことができた。今思えば不思議なことだったと阿佐先生
は当時を振り返って言う。勉強はしなかったが、父と大阪・兵
庫を訪れたとき、盲学校の点字教科書や点字一覧表をもらって
いたので、誰に教わることもなく自然に点字を読むようになって
いた。しかし、点字板は持っていなかったので、書くことは
なかった。

11歳の時、4年遅れて徳島盲学校1年に入学となった。1年
生ではあるが、既に点字の読み書きに不自由はなく、長い「遊
び」の期間の経験がものを言って、竹とんぼや水鉄砲を作るの
も得意であった。当時1年から6年まで含めて1学級という複
式学級の中で、教師の手も回らないため、勉強らしい勉強もせ
ず、授業中はテーラー式計算機の駒を使って、友達と五目並べ
に熱中していたという。それでも1年生の時に1・2年の学業
を修了、2年生で3・4年の学業を修了してしまい、合計4年
で小学校を卒業することになった。

点字への目覚め

小学校4年の音楽の教科書をもらったときのことである。3
年生までの音楽の教科書は、歌の歌詞しか書いてなかったのだ
が、4年生の教科書では歌詞の前にこれまで見たことのない点
字が並んでいた。この点字については先生も教えてくれない。
幸い知っている歌だったので、家に持ち帰って母に墨字の楽譜
を見てもらいながらなぞっていくと、「ス」が「ド」の音である

というようなことが解ってきた。このようにして、点字楽譜も誰に教わることもなくマスターしてしまった。点字というものに意識的に興味を持つようになったのはこのときであった。

中学は東京盲学校（俗に言う東盲）中等部鍼按科へ進むことになった。入学試験のある難しい学校で、東盲師範部普通科出身の担任教師からは、合格は難しいだろうから、ダメだったら大阪府盲へ行けと言われ、すぐに大阪へ戻れるよう荷物は駅留めにしたまま東盲の試験を受けた。翌日発表があり、幸い合格したのでそのまま東盲の寄宿舍へ入ることになった。

東盲へ入学したことで、点字への関わりはさらに深まることになった。当時の盲学校では点字教科書は自分たちで作るしかなく、東盲では独自の点字教科書作成のシステムを持っていた。中等部の上には、盲学校教師を養成する師範部があり、その師範部学生で組織する「印刷練習生」という制度がそれである。印刷練習生に合格した学生は、点字教科書の製版・印刷作業をしてアルバイト料を貰えるのである。1年目で月4円、2年目で5円、3年目で6円だったという。当時の寄宿舍の食費が月10円50銭であったというから、かなりの小遣い稼ぎになった。阿佐先生はまだ師範部の学生ではないが、中等部4年でこれに志願し試験に合格してしまったので、例外的に印刷練習生として認められることになった。教科書を作るのだから、点字は正確でなければならない。そこで当時の「東盲点字規則」を必死で勉強した。本格的な点字研究を始めたのはこのときからであった。

東盲中等部からさらに師範部へ進み、最初の赴任地岡山盲学校に勤めて3年半経ったとき、文部省から校長宛に照会があっ

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

— 次号（2004年12月 No.199）予告 —

特集 国際点字楽譜の動向と日本のこれからの対応 ◎加藤 俊和

ルポ デイジーよこんにちは、テープよさようなら——PTR1の普及で喜ぶ人、戸惑う人

◎水谷 昌史

先達に学び業績を知る 戸井美智子さんを訪ねて ◎竹田 恭子

施設レポート 点字図書館の原点を守る「長野県上田点字図書館」

◎広沢 里枝子

表紙写真：第1回本間一夫文化賞を受賞した阿佐博さん。同賞は、日本点字図書館が創設者・本間一夫氏を記念し今年創設したもの。また、後方に写る胸像は、昨年11月、同館1階ロビーに設置された本間氏の像。

（本誌特集①に関連記事掲載）

月刊 視覚障害 —その研究と情報—

2004年11月 No.198

年間購読料 6,000円（送料とも）

発行日 2004年11月1日

編集人 高橋 実

（連絡先）社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター

〒167-0043 東京都杉並区上荻2丁目37番10号 Keiビル

TEL (03) 5310-5051 FAX (03) 5310-5053

<http://www.siencenter.or.jp/>

振替口座 00160-4-16103

発行人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073 東京都世田谷区砧6丁目26番21号

印刷所 タナカ印刷株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目12番4号

TEL (03) 3567-2551 FAX (03) 3564-2920

★本誌は5媒体出版です。活字の他、点字・テープ・フロッピー・点字メール版、ともに同センターより発行しています。購読は年間で、点字・テープ半減速（1本）・フロッピー・点字メール版、いずれも6,000円、テープ普通速（2本）のみ7,200円です。